

スローガン「衆賢茅茹 ～心をひとつに～」

【はじめに】

2019年度は「衆賢茅茹 ～心をひとつに～」のスローガンの下、一年間活動を展開して参りました。心をひとつにして一丸となって邁進していきたい、また衆賢茅茹の意味でもある自身だけが重用とされればよいとは考えず、仲間と共にすればよい結果が得られるということ掲げ、浦安の市民の皆様にも求められる組織を目指し、運動を展開いたしました。メンバー数が減少する中、3つの委員会という構成と委員会担当の負担が大きいながらも、何とか終えることが出来ました。これもひとえに、メンバー、関係諸団体の皆様、OB・OGの先輩方の多大なるご支援、ご協力のおかげだと思っております。心より御礼を申し上げます。僧侶という職業から心と人と人との繋がり、浦安の良さや歴史を地域の人々と共に知ってもらい、私自身、メンバーに事業を通じて成長してもらいたいとの思いの中、年当初、イレギュラーな事が起こったり、予定していた事業が構築出来なかった事もありました。会員拡大に関しても2名の新入会員に入会して頂きましたが、掲げた目標に大きく至らない結果となりました。改めて会員拡大の難しさを感じ、私自身のリーダーシップの足りなさを痛感致しました。しかしながら、各委員長、メンバーの最大のご尽力のおかげで全ての運動を終了することが出来ました。事業を行う中で2019年度の経験が少なからず、今後の成長に繋がっていくことと信じております。

【信頼から生まれる組織】

相手を思う気持ちや当たり前のことを実行することの大事さ、約束を守ることで信頼が生まれ、組織力を高めていきたいとの思いで組織づくりを目指しました。2019年は理事会運営や理事会や例会の出席率の低さは否めない年となったと思います。今一度、理事の重さと役割を考えてもらい、より良い運動を展開する為にも2020年度は邁進してもらいたいと思います。私自身もメンバーに寄り添えなかった事、運営の基盤を作れなかった事等、反省するべき点となりました。しかしながら、1月の新年例会でのおもてなしの精神や感謝と気遣いで良いスタートが切れたこと、また2回の臨時総会、OB親睦会を通じてOB・OGの先輩方との交流が深められたことは繋がりを強固なものにする結果になったと考えます。無事に終えられましたのも担当委員会を始めとするメンバーの皆様のおかげであると思っております。また、浦安青年会議所始まって初の外部監事として熊木幸治先輩をお招き致しました。このことは今後の組織力、運営強化のきっかけとなったと思います。そして、情報の共有という点ではホームページのデザイン及び公開内容の精査を行い、今後の情報

発信の強化の一助となったと考えます。

【未来への主体性】

選挙において候補者の選択を行うことは市民の重要な機会と権利であると所信にも記しましたが、まちの未来を考えるきっかけになって欲しいとの思いから3月に地方統一選挙における県議会議員選挙公開討論会を実施いたしました。当日は強風による影響で会場が急遽変更になりましたが、3名の立候補者に参加をして頂き、多子社会の実現や浦安市の課題についてディスカッションを行い、立候補者の意見を聞く重要な機会となったと思います。来場者数や多くの市民に耳を傾けて欲しいという点では物足りなさは否めませんでした。政策本位による政治選択を推進する一助となったと確信しています。そして4月には未来の有権者である子どもたちに自分たちの未来は自分たちで決めるという意識を持ってほしいとの思いから主権者意識醸成事業を行いました。東京学館浦安高等学校の2年生に参加して頂き、模擬選挙と選挙のしくみについての講義を行い、実際に使用されている投票用紙記載台、投票箱、投票用紙を使用して選挙を体験して頂きました。事業終了後には教頭先生、課外授業担当の先生からも「選挙について良い学びの場になりました」との言葉を頂き、民主主義のしくみと政治への関心を高める結果になったと考えます。この事業を通じて、投票率の向上に寄与すると共に、まちの将来を考える一助になったと思っています。

【青少年事業について】

毎年開催しております「わんぱく相撲」ですが、今年度は過去アンケートの結果を鑑みて、シンプルなシングルトーナメントによる一発勝負を採用し、274名のわんぱく力士に参加して頂き、無事に終えることができました。一発勝負への評価については賛否両論ありましたが、もう少しやりたかった」という声が多かったこともあり、来年以降は考慮する必要があるように思いました。また、設営面では例年各学校よりお借りしているマットを借用せず、体育館にある畳を使用し、設営の省力化を行いました。毎年工夫をこらして開催しておりますが、本年は委員長の特徴がより強く出たわんぱく相撲浦安場所であったと思います。計画通りに行えなかった部分もありましたが、何事にも立ち向かうことの出来る強い心を育めたと思っています。また本年はわんぱく相撲女子全国大会が初めて開催され、浦安からも1名千葉選抜チームとして全国大会に出場し、良い経験になったと共に、次年度以降も開催予定ということもあり、更なる浦安場所からの活躍を期待しております。そして今年度は「感謝の心」を育み、自分に関わる全ての人々やものに感謝の気持ちを持ってもらいたいとのことから、8月に食育事業として「MAGUROでGO!～親子で楽しむ寿司教室～」を開催しました。魚の捌き方を学び、最後にお寿司として食すことで、楽しい体験の中で普段何気なく食べている物への感謝と口に運ばれるまでの過程や、生産者の思いを伝えることが出来たと思っています。今後の「食」に対する意識が変化し、家庭内のコミュニケーションのきっかけとなれば幸いです。しかし、設営等に関しては、備品の確認不足や講師との打ち合わせ不足が否め

ない結果となり、スケジュール通りに進まなかった事は今後の事業構築をする上で、課題を残すこととなりました。事業全体として変則的なことも多々ありましたが、無事終えることができましたのもメンバーの皆様のご協力の賜物であります。心から感謝の意を送りたいと思います。

【研修拡大事業について】

理事長所信を記したとき、私は僧侶として心と心、人と人の繋がりを大事にしたいと思い、事業を行いたいと思っていました。6月例会において研修事業として「僧侶に学ぶ心の授業」を公益社団法人太田青年会議所OBであり、公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会会長をご歴任された、倉嶋慶秀先輩をお招きして、第一部では長きにわたり青年会議所活動を行ってきた経験を踏まえ、人の心の「語り方」と「悟り方」を僧侶の観点からご講演頂き、第二部では青年会議所の魅力を伝えたいとの思いから私と倉嶋先輩の対談を行わせて頂きました。仏教の教えから始まり、映像も交えての講演で仏教が身近に感じたと共にJCに対する向き合い方や考え方を学ばせて頂き、メンバー、オブザーバーの方々も共感できたと思っています。また拝見させていただいた映像から命の大事さも教えていただきました。対談では魅力を伝えたいと思っていましたが、私が相談するような設えになってしまい、少し物足りなさがありました。私自身、理事長としての心構えは大変学ぶべき点が多く、メンバーにもJC活動に対しての思いや向き合い方を再認識する良い機会になったと思います。この例会で学んだことで青年会議所運動の意識が高まり、今後飛躍してくれることを切に願います。今回、ご縁があり同じ宗派の僧侶でもある倉嶋先輩をお呼びして事業が出来ましたことはJCが結んでくれた人と人との繋がりを改めて感じたとともに、同じ職業でJAYCEEという点でも、私にとっても目標にするべきものを多く学ばせて頂いた例会となりました。このご縁と事業を担当し、運営して頂いたメンバーには心より感謝致します。

【歴史の継承】

浦安はかつて漁師町として栄え、発展をしてきました。境川もまちの変化を見つめてきた重要な河川であり、浦安の水辺の良さを見つめ直し、今以上に関心を持ってもらい、また浦安の歴史の継承を目的に9月例会として、「水辺へGO！～スマイル プロデュース～家族でハゼ釣り体験～」を開催致しました。浦安市民の親子94名の方に参加して頂き、昔の浦安で良く見られたハゼ釣りを体験してもらい、また、浦安伝統の投網の一つである細川流の投網を浦安細川流投網保存会の方々に披露してもらい、歴史の継承に繋がりました。釣りが初めてという方も多数参加しておりましたが、ほとんどの親子がハゼを釣ることが出来、その光景はかつての浦安の面影を思い起こさせるものとなりました。投網では伝統漁法を知る貴重な機会になったと思っています。この事業を通じて参加した皆様が改めて浦安の水辺の良さと歴史を継承していく一助になり、繋がりを深めていく機会になったと確信しております。また浦安水辺の会の皆様にもご協力を頂き、無事に終えられましたこと、心より御礼申し上げます。

【SDG s 事業について】

今年度、日本青年会議所が掲げるSDG sの推進に伴い、浦安青年会議所でもメンバーにSDG sの事を知って貰いたいとの下、市民まつりと10月例会においてSDG sの事業を開催致しました。市民まつりでは来場者に国連が掲げる持続的発展を目指すSDG sの青年会議所による周知を行い、メンバーが説明をしました。来場者の中には知らなかった方も多くいましたが、知っている方の中には企業で今推進しているが今以上に推進していく為には今後、もっと深くSDG sを達成するための具体的な手法を考えて実行に移していかなければならないとの声もあり、SDG sを市民と共に考える良い機会になったと思います。集客の点ではブースに呼び込む方法を考えることが課題点となりました。そして10月例会では公益社団法人日本青年会議所千葉ブロック協議会、SDG s推進委員会委員長上條和彦君を講師としてお招きし、講演とカードゲーム、ワークショップを体験し、より深くSDG sを知る機会になりました。国際社会共通の目標として今後、メンバー個人個人がどのように参画していくのかを考えるきっかけとなった例会であったと思っています。

【さいごに】

本年度は、メンバーに支えられた一年でありました。理事長という職を受けるにあたり、不安もありましたが、メンバーをはじめ、皆様のおかげで何とか全うすることが出来ました。心より御礼申し上げます。理事長を務めさせて頂き、理事長だからこそ経験できること、理事長だから見える景色を見させて頂きました。この経験は今後の私の人生において必ずや役に立つと確信しております。また、時に迷いながら決断することの大事さと組織としての運営の難しさを学ばせて頂きました。今後はこの経験を活かしていければと思っております。メンバーの皆様の機会の提供と成長に寄与できたのか、反省するべきことも多かった一年間でしたが、今年度に得たことを今後の成長に繋げて頂ければと思います。そして2020年度、浦安青年会議所は40周年を迎えます。高梨理事長のもと浦安青年会議所の更なる発展の為、最大限協力をしていくと共に来年度が素晴らしい年になることをご祈念申し上げ、2019年度の事業報告とさせて頂きます。2019年度の運動に際し、ご協力頂きました全ての方々に心より感謝を申し上げます。一年間、本当にありがとうございました。